

市制60周年 入間川の思い出

今年市制施行60周年、当時私は高校在学中でした。入間川は、子供の頃の毎日の遊び場でした。当時は「アユが走り、ホタル飛び交う」川でした。50年代国道16号、60年代川越狭山工業団地造成等により人口急増。米軍基地からの汚水の放流等で、悪臭で人がよりつかない、魚は住めない入間川になってしまいました。70年代は全国的な公害が進んだ時代でした。



くずはき橋（平成17年2月に撤去）

80年代、入間川を含む関東五河川で「緑と清流を親子でサケを放流」環境運動が始まり、コップの中でサケの卵を育て入間川でも放流運動に参加し、合わせて市・県・国へも要請行動を行った。30数年ぶりに入間川にも清流がもどり、サケの遡上も見られるようになった。しかし入間川・荒川合流地点、荒川の「秋ヶ瀬堰」では40匹以上のサケが堰のため遡上できず、現在、魚道の改良要請も進めています。



親子でサケを放流

サケの放流30数年、環境問題・命の大切さを学び、親子2代に引き継がれた事は、私たちにとっても誇りある事だとの思いです。又先日(3月1日)、入間川に架かっていた「くずはき橋の歴史」講座が、公民館主催で開催され、「写真から見たくずはき橋」の思い出を話す機会があり、20数年撮りためた写真が日の目を見たので非常にありがたいと思っています。

狭山市写真作家協会会長 栗原忠治

一般公募による

第2回 民話めぐりウォーキング実施日決まる!!

～2014年10月25日(土) 奥富方面～

「狭山の民話を語り、子どもたちや多くの人に知ってもらい、ふるさと狭山への愛着をもってもらいたい」という思いでスタートした民話を広めるプロジェクトも、立ち上げて4年目を迎えました。

2011年10月の今坂柳二氏の案内による笹井方面の民話めぐりに始まり、広瀬、柏原、入曽、奥富、入間川と下見を続け、昨年11月に一般公募による第1回 広瀬地区民話めぐりウォーキングを実施しました。

第2回の今年は、自然も豊かで、文化財の神社やお寺も多く、それにまつわる民話も多い奥富地区を、一般公募による民話めぐりウォーキングの場として選びました。たくさんの方々の参加を待っています。

詳細は、「広報さやま」9月号、文団連会報「文化のいぶき」イベント情報などで案内します。

(狭山の民話を広めるプロジェクトチーム 板屋捷子)

編集後記

NHK のど自慢が、7月狭山に来る。鐘が一つでも笑顔一杯。不思議に思っていたが、出演できるのは7千通もの希望者から選ばれた20組と言われ納得。どんな顔ぶれなのか楽しみです。文団連も15周年。会報も125号を数え、創刊号に込められた先輩達の意志を引き継いで、続けてゆきたいものです。

本年度の重点項目に会報の広報価値を高めるようにとあります。チーム全員責任重大です。

(高沢正夫)